

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

映像をみていた時間ほね、この
10分間でした。

体全体からぞくぞくと身ふるい
かしてした。身の毛もそでっという
言葉の真の意味をほいで
味わいして。

もしあの時その場にいたら、

どうな、ていらせう。

かんぼ、て生きていつほしいてす。

ふりがな お名前	佐藤 恵子	年齢	57 才
ご住所	石川県	都道府県	石川 市・郡

平成七年一月十七日に、娘一才の誕生日に、念の時計を買に行きました。明け方、地震があつたのは知つては、少しも見ずにあかやめを、そんな大事になつて、いらるとは知らなくて、嫌、うに時計をえ、う、お金の払いました。店員の、怪訝なう、お屋敷、家に居り、街並が燃えている様子が見え、映る、テレビ画面を見て、はじめ、事の重大さを知った。わ、い、は、歌にある、百年

た、子供が健やかに長寿をまとうことができますように、願ひ込めて購入したその時計に、早く神戸が復興し、人々が元気にありますように、という思いも込めて、子供の誕生日の一月十四日、一月十七日は、その日、すこ、う、き、ま、い、な、う、ぞ、あ、の、時、助、け、あ、つ、た、気、持、を、大、切、に、し、て、生、き、て、い、つ、て、下、さ、い、。

林好栄

今年は、自然災害が多発して、如何ともし
加たない気持ちです。新潟の豪雨の時は、他人事
のようになり、自分で見ておきながら、一週間も
いなりうらに、自分の住む福井が豪雨にみま
われる。それでも、我身にふりかかれば、
まだ他人事で、そんな自分の所に、豪雨のさ
中、義父が田舎へ見に行き、川に転落し、
たくなつてしまつた。

「火害で身内をたたくし、それにも、昼元気で会
話してたのに、夕方には、物言ひぬ姿になつ

てしまつた。それが、どれほどのシヨツクかは
その立場になつて、痛烈に思わされた。まだ
そのシヨツクからたらなおれてはいないけれ
ど、その人かこの世にありて、いかに大きな
存在だつたか、つていうことを、亡くしてはじ
め、知つた、死ぬるは、愚かだつたと思ふのと
人の命は、何ものにも替えがたし、生まれて
きてはいけぬ命なると、いひんて、まさ
まざと知つてしまつて、安易に人なつか殺し
てはいけぬいと訴えたい。

福井市

4文

林好學

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)	
住所	福井 都道府県 敦賀 市 町・村
フリガナ 氏名	清水 龍光 (68歳) 参加総人数 (申込者を含む) ※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

あの震災から12年 復興状況を見せたいから。(ツテマス参加) 皆さんの
強い意欲 敦賀町を元気に。仲間同士で弱者を助け合って歩んで
欲しい。あの震災をきっかけに「負の遺産」を未来のプラスにする
様全日本全世界が「天の立場」を何日か休むなうなと思いたい。
神戸の皆さんありがとう。今年も頑張ります。

「ハ・クは忘れぬ」

佐所岐真本葉市

谷杉山静

年令七十五(男)

波草は震度4 眠りの中で飛び起き動けずふんを抱きしめて
家族安全確認 テレビがニュースを流し出した。二十日の新聞には死者
4千人超すと 胸中を詩にしました 一月十七日より

「夜明け前」

韓音深く揺れ一瞬奮動けず

死と生何事が起きん

空黒煙光り見えす刻々

多天の中明日は来たらん

「子を思ふ」

崩れし家屋南えし柔子の声

終生と思えど天に神

諸手を上げ抱中の涙

思わす生誓いし

「時偏成」

青山いつこし五千有余の命

天知れよ星よ知れ残れし人の

声は叫けん時過ぎれど涙はかれん

光は差す輝く神戸の空に

あれから十年、今年日本中

大災害

阪神・淡路の大復興を

悲しみも苦しみも幾年月

今立ち上がられたことを

心より嬉しく思います

「あゝ淡路」

北西の震来 断層深く淡路の

春遠く木片道を裏へぐ

只茫然人々流涙も出づあゝ

空に聞く代柯をせんかと

テレビを見ていて

十五詩にしました

その中から四詩

テーマ『1.17は忘れない』

今から9年前1995年、まだ記憶に新しい“あの酷い揺れ”を私は生まれてはじめて知りました。後に聞いた話ですが、私の住んでいる町岐阜県大垣市でも震度4と言う事でした。特に私の住んでいる10階建のビルはしななって揺れました。しばらくしてテレビを付けたところ、阪神高速道路倒壊の現場映像が、目に飛び込みそれは、ふいな出来事とはいえ今なお昨日の事のように、鮮明に思い出されます。

平成15年度自治会の防火CLUB支部長を引き受けた時にも、その惨劇は脈々と語り継がれていました。今年の輪中水害地で見かけたのは、我町の悲惨な光景でした。

一昨年は支部長をしていた関係で、様々な人々が作られた『激震』の映像を、自分の目で見る機会が多くありました。

その間、耳にした語り部の話は、心に衝撃を覚え、当時の凄まじさを実感する思いであり、特に画面に写った、海底断層出現の場面には、思わず“息を飲み”、中でも市立図書館で借りた『映像で語り継ぐ阪神・淡路大震災』～失われたあの時・あの場所～のVHSの内容は、今でも私の頭と目に焼き付いていて、決して離れる事はありません。

その他、支部長期間中の自主防災LEADER研で学んだ事は、『一番頼りになるのは、自分自身であり、最後まで生きる望みや力を見失わない事』であるという事です。つまり『かけがえのない尊い自分の命』、むやみに捨てるわけにはいきません。常日頃は個々バラバラの地域生活では、急場を切り抜ける事が不可能です。地域の安全活動には、支え合うみんなの心が一番大切だと思います。



今後はこの阪神・淡路大震災の教訓を大切に、後世に伝える努力をしていきたいと考えています。

詳しくはNORIKO-TERAMOTOのHOMEPAGEをご覧ください。

(お名前) 寺本法子

(年齢) 53歳

(ご住所) 岐阜

都道府県

大垣

市・郡

「わが不死鳥」神戸

1/2

日本中を震撼させた「阪神、淡路大震災」からもう十年、まるで昨日の事のような衝撃と映像は、私たちの記憶から消え去ることはありません。まして被災された方々にとっては生々しい現実であり、その心労はいかばかりかと心より御見舞い申し上げますと共に、犠牲となられた六千人以上の方々の御冥福を心よりお祈り申し上げるものであります。

しかし、天地一変、混乱のみの日の皆様の沉着、冷静な行動は、日本人として、又人間としての誇りに満ち私たちを感動させたものであります。と同時に皆様がいかに「わが街、神戸」を愛しておられるかが、切ない程伝わってきました。又、「阪神、淡路大震災」以後、私たちの心の中に、震災や防災への警鐘や防備の觀念がしっかりと植え付けられたことは、皆様の多大な犠牲による尊い教訓でもありました。み水から十年、阪神、神戸の皆様は、意志と高貴な想いは不死鳥のごとき復興を果され、「ラヴ神戸」の樹立に拍手を送ります。

グヨ ケー20 20x20

飛驒市

田中 和江

「終」

住所 飛騨市

氏名 田中 和江

年齢 六十八才

1、17は忘れない
 当日朝のテレビの映像を見た時の驚きは今
 だ忘れる事はありません。高速道路が弓なり
 になつてしまつた映像、広い範囲での火災発
 生、刻々一刻と被害状況を報道するテレビに
 一日中くまづけで過すように思います。
 神戸には行った事はありませんが、おしや
 れな町という印象があり一度訪れたいと日頃
 思つていたのですが機会がなく、そのまゝに
 なつておりました。毎年1、17には追悼式が
 行なわれ新聞、テレビで見聞きし涙しますが
 何も手助けする事が出来ずにいる自分の無力
 を情なく思う。その後復興には目を見張る
 程、ほとんど震災前と変わらない街になつたと
 いう事で、すごいなという思いで一杯です。
 地域：行政が一丸となつて頑張つて立ち直
 つていつか姿をエールを送りたい。神戸ルミ
 ナリエの夜景をテレビで見ますと一度行きたい
 といふ心か踊ります。生きてゐる限り忘れず事
 はないでしょう。

浜松市
 長崎久代 六十四才

阪神大震災 メッセージ

阪神在住 郷愁の回想

静岡県袋井市

鈴木孝

89A

ミナト神戸 青春時代の夢多き生活はそこ
 にしか存かつた 御新町東明 下宿先の前を
 阪神電車が走り北に暫うく歩くと乙女塚とい
 う古跡があり尚~~数~~分違ふと神戸市東辺の據点
 にお合う 市営バスの発着地が在り明石海岸
 まで一巡のコースは行楽の業しやを誘つた
 海岸にも近く岸辺には著名の灘の名酒の醸造
 卒が棟を連ねていた 渚に立つ~~見~~る港には大
 小の船が所狭し~~と~~浮かび港の大きな機構が影を
 落して海面に揺れていた

大阪の食い倒れ 京都の着倒れのことばは
 今は知る人も少なくなるつたか その食事は飽き
 ることを知らなかつた ~~三ヶ~~元町の中華街で始め
 て口にした料理 新南地で名物の十文字ゼンザ
 イの味も今も忘れまい 田舎から船が出さ
 ず御~~や~~ことと余暇を楽しんむ五年間 紆余曲
 折の時代のことはさて置き平成七年一月十七
 日の映像は驚天動地の響きであつた 災害一
 刃例のニエース~~も~~今は夢く如くその繁栄を見
 る 日本経済の旗頭としての活動には祝福あり

私には地震の折、大阪神戸、淡路島と友達か
 いまいた大阪南淡町と話すくに連絡か
 事を確認したものの、東灘区に住む友の消息か
 つかぬまま、寂しさをぬくべかりましたか「幸いにも無
 事である事ばかり電話口とおいおい話した
 ための事、そんな中、大阪の友は息子さんと二人
 の「グエツ」にいた「お」の愛をつめ込んど、友の
 元へと心死を覚えたそう、また下の娘さん
 直一時引き取り学校へも通わせたくれたとの
 (家)に頭の下がるい話です、今思ふと、寂れた

なるくいう見詰ちはあつかひか、たよと笑つて
 いつとあしくある日の事、私共の売店に買物を
 しつくとた長岡区の方とも御無事、何より
 しんとこの言葉に切つ掛けに今は年賀状のや
 りとりや宛急便を送りあう間柄となりました
 たくさんの専ら命を奪ったにくき地震は
 あります、神戸は「不死鳥」の如くよみ返りまし
 た「盲さん」本当に御善哉様、ひと人間は一人に
 は直まらぬない、人と人と加え合つてこそ「幸
 福」なれ、さんかといふ証しをもちたいました。

静岡県島田市

佐野和子

53キ

人には、元氣よく野球をかっばっている。
 ぼくはその日に地し人によって命を亡くし
 た人々の分までぼくが一生けん命に生きたい
 と、思います。
 ぼくの住む静岡県も東海大地し人がくると
 言われています。いつくるのかこわいけど、
 どんな事があったても生きていきたい。
 そしてしよ来は、水戸黄門をやる役者に
 なってみんなを楽しませたい。と思っ
 ています。かんばれ阪神淡路の。高林幹弘

静岡県浜北市
 高林幹弘(9才)

平成七年一月十七日 その日、新たな命が
 生れた。その日、阪神・淡路で大きな地し
 ンが、おこった事もしらずに
 ぼくは、もろすぐ十才です。ぼくの生まれ
 た日に地し人によって多くのけが人と死者が
 出た事をぼくは小学生になっ てからくわしく
 知りました。もしその日ぼくが兵庫の地し人
 の場所で生まれていたらぼくは、どうなっ
 いたんだろう？
 ぼくは今四年生で学校に毎日いっ てる。休

テーマ「1・14は忘れない」

浜北市

藤森 いづゑ

(82頁)

大正琴の演奏旅行で神戸を訪ねたのは、平成5年4月。バスの車窓に映る景色を楽しみながら、西宮インターから神戸大橋を渡り、ワールド記念ホール会場へ。鉢巻もりりしく、「ソーラン節」を弾き終え、れんが塀の家並みの続く坂道を縫って、山を背に建つ須磨区の宿舎「須磨温泉 寿楼」に着いた。その夜ホテルの窓から、夢に見た神戸のきらめく華やかさに目を見張った。内海にほの明るい灯を落とす瀬戸大橋の神秘さは、旅情を誘う。

翌日は、神戸ロワーエーの夢風船に乗ってハーブ園へ。色とりどりの花のお迎えに合うが、見渡す限りのかすみの中、風景は合えず、乳色に包まれた一望に終る。異人館ではフランスと英国館を見学。家具類の豪華に驚く。近くのインド人のお店でネックチーフを買った。それから六甲の回転展望台に乗る。その後、思い出の街を襲った大地震の悲惨さを見て胸を痛めた。私は、被災前の景色を胸に温めている。

「1.17メッセージ」応募用紙

被災地神戸の皆様へ

あの、衝撃的で、痛ましい阪神・淡路大震災からはや10年が経とうとしています。私も、大震災の直前まで神戸で生活をしていた者として、心の奥底より大好きな街神戸の復興を願っております。

今、現在遠く離れた静岡で暮らしている私に唯一できる事は、あの時の悲しみや罹災された方々のご苦勞を、まだこの世に生を受けていなかった私の子供達へ伝えていく事だと思います。

神戸の皆様、これからも持ち前の人情とたくましさで、力を合わせ頑張ってください。私も、陰ながら応援しております。

皆様の益々のご繁栄を心より願っております。

(お名前) 立岡 直人

(年齢) 35歳

(ご住所) 静岡県

「1.17メッセージ」応募用紙

95年1月17日 私はこれから長く生きていく身身荷仕の準備を
 していました。終日家において一人で段ボールに身身荷仕品を詰めしていました。早朝
 普通にテレビのスイッチを押して、通常の通番組を見ながらの時から
 伝えているニュースの衝撃の大きさに、米倉朝のシマウマが直撃し手付上り
 目を見開きました。次々に伝わってきた被害の凄惨さより互に。地震
 とは知らぬ恐怖に慄然としていました。

被害を受けた方々は、会社や学組が被災した、募金に
 応募するよう行動したと聞かれました。やはり4年後に高知に転勤し
 千葉を経て当時にたどり着いたと聞かれました。その間10年間の経緯もまたが
 私の過去の人生の中で最悪な10年間（もちろん被災は被害と
 比較したところでは10年間で最も）にひびきつた。将来のたくわえと
 子供の成長と一家の柱としての責任を果す。私にはこれとそれ
 並行するといつて人並み大層な、取れたらいい。あの凄惨な被害
 を受けた方々の何れかの苦悩に似ている。久々思った10年間は。あがりていきました。

ふりがな お名前	関 順 一	年 齢	56 才
ご住所	静岡県	沼津	市・郡

「1.17メッセージ」応募用紙

阪神大震災から早10年 この間のご苦勞は実際に体験された方でなければ 言い表せない苦惱の10年間であったと思われます。

今でもまだ この間のことのように あの驚きと恐ろしさは、実際に体験をしなかった者でも脳裏に焼き付いて離れません。

私は、都内でその情報を聞き、朝テレビをつけて これが日本でおきていることか？

この間 通った 阪神高速道路が・・・「嘘だろう」と、目を疑ったものでした。

当然、神戸にいる仲間や、都内から阪神地区へ転勤していった友人のことが心配になり連絡を取りましたが、何日間か 連絡がとれず、友人の実家へ心配で確認したことを思い出します。

幸いにも、友人は無事でした。

しかし、当時の時のことを後で聞いて、私も絶句いたしました。

単身の友人は、「多数の人々が財布だけを持って、新幹線の駅まで6時間も7時間もかけて歩いてたどり着いた」と言っていました、その時初めて「助かった」と、思ったそうです。

そこに来るまでの道のりは、必死であったのと同時に、先進国日本とは思えない状況で

「階段で、道路で、何十人の方の遺体を見たものだろうか」と、言っていました。

友人も、マンションが傾き 一つ逃げ遅れたら「だめだったかも知れない」と言っていました。

その恐怖感、実際に体験した方でないと解らないと思いますが、自分としてもその時実感を

【他人事でない自分事。】自分が震災に直面していたらどうなってしまっていたらどうかといまだに考想する次第でございます。

今更ではございますが、当時の多数の亡くなられた方々への心よりご冥福をお祈りいたします。

しかし 10年たった現在 完全復興をなしとげた事は、神戸に住まわれている方々の

血と涙と汗の結晶であり 日々努力そして強い精神力の賜物と思えます。

私も弱輩ながら、震災10周年を契機に、神戸の方々の苦惱の日々と並々ならぬ努力を

見習うべく、日々の業務に励むと共に、神戸のこれからの更なるご発展をお祈りいたします。

(お名前) 石和田 武利

(年齢) 50

(ご住所) 静岡 都道府県 沼津 (市) 郡

「1.17メッセージ」応募用紙

阪神大震災から10年という時が経過しますが、今でもTVで見た当時の被害状況が目に強く焼きついています。これは、被害に遭われた方々はもちろん、日本全国の人達が悲鳴を挙げて驚き、決して忘れることが出来ない日であったように思います

早期の神戸復興を願うことは言うまでもなく、当時の経験を生かし防災意識・レベルの向上につなげていかななくてはならないと思います。

言うまでもなく日本は地震大国です。いつどこで震災が起こるか分かりません。ましてや東海地区に居住する私にとってもとても不安なことです。しかし、不安で終わらせてはいけないと思います。震災は起きるものと認識をし、阪神大震災の経験を生かし、事前の準備を進めていくことが極めて重要なことかと思えます。百貨店という多くの人達が集まる施設で働く者として、防災については、人一倍認識を強く持ち、真剣に考え、準備を行いたいと思います。また、家庭に於いても再度、検証を行い、事前準備を進めたいと思います。「備え有れば憂い無し」ということわざ通りに実行したいと思います。

最後に、被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

(お名前) ^{きょうかな}馬場 勝宏

(年齢) 37歳

(ご住所) 静岡 都道府県 沼津 市・郡

「1.17メッセージ」応募用紙

忘れられない想いを胸に、
みなさん、がんばってください！

04年は、世界中で震災があった大変な年でした。阪神、淡路大震災から10年、あのつらい経験が、新たに起こった悲しい出来事のなかでも、ボランティアをはじめとする様々な場面に生かされていると思います。

今は関西から離れていますが、震災のあったあの時、大阪に居て大きな揺れの中で目を覚ましたあの恐怖は忘れられません。

私は無事にこうしていますが、知人に中には家族を亡くした人も居ます。残された私たちが出来る事を精一杯行なって、助け合ってより良い世界をつくっていく事が、なによりも大事だと思います。

一緒に、がんばりましょう！

(お名前) 治居 真吾 (はるい しんご) (年齢) 44

(ご住所) 都道府県 静岡県・郡

「1.17メッセージ」応募用紙

この10年間、様々な思いの中過ごされてきたこと
とと思います。

また私達には想像もできないような悲しみやご
苦勞もあつたと思います。

それでも、力強く生きて復興を遂げられたパワー
に感動しております。

これからも、そのパワーを持ち続け、日本全国に
その姿を見せ続けてください。

まりのな
(お名前) 安富 芳江 (やすとみ よしえ) (年 齢)

(ご住所) 都道府県 静岡県・郡

メッセージ: 私は、静岡県で高校3年生のクラス担任をしています。昨年冬、修学旅行で神戸を訪れました。私達は「東海大地震」が危ぶまれるている地域に暮らしています。震災で壊された、メリケン波止場を生徒達と見て、言葉に詰まってしまいました。

しかし、ポートアイランドのホテルから「百万\$の夜景」を眺めた時に、神戸の「復興」を実感したことが忘れられません。

いつかまた、神戸の街を訪れてみたいと思います。

名前: 中村 一 (なかむら はじめ)

年齢: 37

住所: 静岡県富士市

メッセージ:長くて短かった10年、今一度思い起こしてみる時期なのかも!あの時大阪で地震を経験し、復興ですぐに大阪港から船で神戸入りし、地震の凄さをめのあたりにし驚いている暇もなく公的機関の協力を携わり、神戸に住む社員にバイクで、水や食べ物を運び、今思えば簡単に出来ない経験をしたなと思うこの頃です。今現在は、東海地震の心配される静岡県に在住しこれも運命と思い、あの頃の経験を子供たちに話し伝えていく中、地震で被災した人たちのためにも二度とあのような大惨事にならないよう、自然のメッセージを素直に受け止め出来ることからしていきたいと考えます。

名前:鈴木好文(すずきよしふみ)

年齢:43

住所:静岡県浜松市



7.1.16.

神戸市

奈良喜美

↑1.17は忘れまい↓

震災の日と、災害を伝える報道資料

あの日の朝、豊中市にいたが、大きな揺れが来た。妻が胆のう摘出手術退院後のまもなぐのことだった。私は立ち上って家内の上にも布をひうげて、上かろうの落下物を阻止しようとした。こんなことしかできなかった。

三ツ目の駅の新大阪の会社まで歩いて出社した。駅弁を二〇個、社員に京都まで買いにやうし、被災地に届けようとしたが、新三国橋前でストップがかかり、やむなく持ち帰り心なすおも皆で食べた。

日にちが数日たつてやうと若い社員を中心に、バイクと自転車による救援隊を組織して現地に入るこゝろができた。

いずれ貴重な資料になると感じながら、震災を伝える、当日夕刊から十日分の全新聞、雑誌、写真集、すべてを買いかめおいた。

それから十年、今の居住地、愛知県一宮市の人は、あまり強い関心がない様子。そこで市の防災センターに、収集したものを全部寄贈して人々に見てもらったら反応が出ました。

夏知果一室市

市橋 イナハシ

誠之助 マコトノタケ

外歲

阪神大震災メッセージ集

題名「愛句を生んだ神戸港」

愛知県宝飯郡

杉本多言

私は、神戸港・名古屋港等に行った時、多くの俳句を創作しました。

1983年昭和58年1月、前に創作した多くの俳句の中から「たつ三俳句」を選びました。(神戸港は海の大玄関)

「多言語の文化を生かす 神戸港」

「著作権 歴史が生きる 積み重ね」(説

明・自宅で「瓢箪・花・本を見て創作」

「つづります 災害防衛 安心船」

私は、阪神大震災の不幸から復興・再生した人々の勇気と努力に、感動してります。

私は、神戸港、横浜港・名古屋港等の重要な港に「安心船」という、水・食品・薬・服、毛布等を常備した船の設置を以前から望んできました。神戸港には、多くの人々のために常備活用されると良いと思います。名古屋港は2000年3月に浮体式防災基地として2万人分の食品を確保してります。

平成16年10月22日

阪神・淡路大震災10周年記念事業推進協議会様

「1.17は忘れない」

あれからの10年大分復興した事と思ひ
ますが、あの時被災地の惨状をテレビで
見て「役に立ちたい」と私が取り組んでいます。

愛知県某町（伊勢）の五十ッ製作所が
自転車と孝製カマド（100個）を積み私の息子も
（200台分）

従軍品としてトラックで運んだのが直接
現地に行ったらテレビで見るよりもかた
と重くびっくりしました。本当に大変でしたね。

どうか一日も早く完全復興して下さいませ。

住所

愛知県海部郡

氏名

高 珠 頼 立 靖 75才

平成7年10月22日 2/2

阪神大震災10周年記念事業推進協議会

佐野 氏名 年号

愛知県海部郡 高瀬 七郎 15才

マシ 靖

新聞

1995年(平成7年)十月28日(土曜日)

200台超す「善意」きょう出発

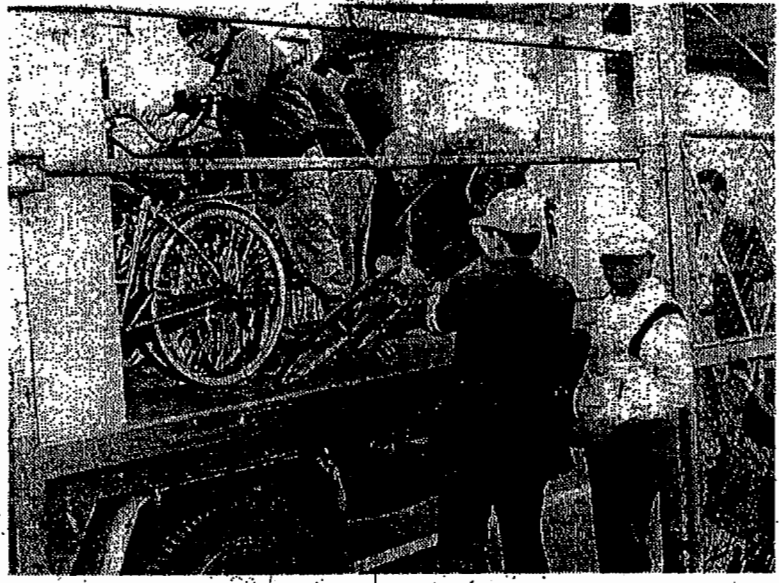
基目寺の 五十川製作所 一宮市や県民らの協力も得る

阪神大震災

被災者に自転車贈る

基目寺町の焼却製鉄業者が、阪神大震災の被災地に、一宮市などの放置自転車などを贈ることになり、二十七日に三十台が、一宮市から引き渡された。

特製カマドも100個追加



基目寺町上菅津にある「五十川製作所」の五十川隆士社長(右)は、被災地の惨状をテレビで見て「役に立ちたい」と考え、自社製のドラム缶製焼却炉を改造したカマド百個を製作。二十一日に直接現地へ運んで、無償で配り回った。その際、日替の足として自転車が不足している現状を目の当たりにし、二十八日に再度、現地へ援助に出向こうと決意。追加のカマド

五十川社長自身、五十台を自費で購入したほか、ラジオ番組などを通じて企業内に協力を募り、二百台以上を集めるのに成功。女性用下着や湿布薬なども寄せられ、四ツや二ツのドラム缶計七台を任立て、従業員を総動員して、神戸市方面へ出張する予定だ。

五十川社長は「現地の対策本部が機能していない。直接出向かないと、被災者に物資が届かない」と話し「費用の面でも段取りでも大変ですけど、乗り掛かった船だから、最後までやり通すつもりです」と、意を切らせて準備に走り回っていた。

阪神大震災の被災者へ贈るためのトラックに積み込まれる放置自転車。一宮市大和町の保管場所で

右記は地元中日新聞の記事です

阪神淡路大震災

足元から忍び寄る寒さに震えながら
毛布にくるまった その女は
白いにぎり飯を一つ
手のひらにのせて
じっと見つめていた
心底ありがたいのです
もったいなくて食べられないのですと
ぼろぼろ涙をこぼした

乱れた髪を無造作に束ね
放心したように その女は
ガレキの前に座り込んでいた
何も考えられないのです
こうして居るのが精いっぱいです
でも

命があるだけ幸せなんですと
うつろな目を空に向けた

ある人は
顔を少し和ませながら
人々の暖かさが身にしみると言い
ある人は
ひとり暮らしの孤独さよりも
避難所の方がましだと言い
また ある人は
長生きしすぎたと
からだを丸めて力なくぼやく

かけがえのない多くの命を奪った阪神淡路大震災。
テレビに見る街の惨状に言葉もなく、避難所暮らしの人々に涙した時、
私は思わず、詩に書き留めました。
今日、目を見張るばかりの復興に尽力された皆様方に、心からの敬意と拍手を送り
ながら、新潟県中越地震の災害に心痛む日々です。

五千有余の命と
避難所暮らしの三十万人と
十万户におよぶ家屋の崩壊
そして
交通網とライフラインの分断
まさに未曽有の
阪神淡路大震災から二週間
そこに都市構造の怖さを見た

心まで
心まで
避難民にしてはならないのです
安らげる日々がいつ来るやら……と
血を吐くように訴える老人がいた

今 人々は
明日へ望みのつながる
証が欲しいに違いない

(平成七年一月二十日の作品です)

とうかいし
東海市

ほさか
保坂 正子

七十歳

阪神・淡路大震災10周年記念

あ

「1.17メッセージ」応募用紙

復興のためには、皆様本当に大変だったと思います。
 明日は我が身かもしれないと思っています。
 何もお役に立てませんが、皆様の体験を
 自身の周りにも伝えることで、防災意識を
 高めていきたいと思っています。

ふりがな お名前	水谷幸世	年齢	29 才
ご住所	愛知県	都道府県	名古屋 市・郡

震災からの十年後の私

かうがう。

私の住んでいる愛知県でもとても揺れたのを覚えてる。二段ベットで寝ていたのが電球が落ちてくるんじゃないかと不安だった。私はちょうど七歳で小学生だった。でも毎日遅刻して学校を行っていた普通の小学生と違う生活を送っていた。毎日の学校生活が嫌で仕方なかった。私は私自身を世界一嫌っていた。そんな私も今年で二十歳。高校は卒業しているけどバイトもしてないニートだ。いじめにうつ病に大変だったけど、ここまで生きてこれたのもすごいと思う。何度も死にたい、という形で自殺しようか考えていた十歳の頃の私がとても懐かしく思えてきた。今年はとても自然災害、異常気候が多かった。これは人間の今していることを反省させるように起きてくるかもしれない。いつ自分の住んでいる街にも地震が起こるかもあからない。地震が起きても何が前向きに生きていたい。

NAME

NO.

DATE

愛知県碧南市

かめやま もとみ

亀山 元美

20歳

「1.17メッセージ」応募用紙

現在は転勤により愛知県に在住しておりますが、10年前の震災の時は京都府、大阪府、兵庫県の県境にある亀岡市に暮らしておりました。当日の朝は仕事が休みだったので午前5時頃から釣に出かける準備をして自宅を出発してコンビニで買い物をする為に駐車場に車を止めた時、エンジンを切った車が突然ジャンプしコンビニの看板も電柱も大きく左右に揺れ出し、しばらくは何が起きたのか解らず、地震だと理解するのに数分かかりました。

念の為に自宅へ電話を入れ、家族の安否と家の状態を確認しましたが、特に被害もなかったのですが、そのまま目的地の日本海へ向かって車を走らせていたら、車のラジオから少しずつ、神戸地区での被害の大きさが伝わってきて、普段早朝はガラガラに空いている道路も車の量が増えてきた為、Uターンして家へ引き返す事にしましたが、1時間で走って来た道が異常な渋滞となり6時間もかかってやっと思いで帰りつきました。

時間の経過とともにどんどん入ってくる被害状況をテレビで見て大震災の事実をやっと理解できました。兵庫県尼崎市に住む親類へ電話を入れた所「卓上ガスコンロ」「水」「食料」が欲しいとの事でしたので渋滞する道路を進む為、ミニバイクで届ける途中、破壊された阪急伊丹駅やほとんどの家が屋根を青いビニールシートで覆ってある、異常に光景に愕然とした事を今でも忘れません。

幸い私の廻りでは大きな被害を受けた者はおりませんが、震災で亡くなられた方や家を失った方々が一日も早く普通に暮らせる日が来る事を願っております。

1.17を体験した人、自分の目で見た人は「忘れる事が出来ない記憶」だと思うし、「忘れてはいけない記憶」だと思います。

(お名前) 太田 吉士朗

(年齢) 46

(ご住所) 都道府県 愛知県 岡崎市

メッセージ: 僕は名古屋在住で、震災の瞬間も名古屋で知りました。
オリックスブルーウェーブを応援し、アマチュアでイラストを描いている僕は、震災後のこの10年で、野球やイラストを通じて神戸を訪れるようになり、神戸の街に触れ、たくさんの人たちに出会えることが出来ました。
僕は震災の現実や被害というのは直接知りません。ただ、野球観戦や地域活動に参加して出会った人たちからも震災のことをよく聞きましたし、活動をキッカケに励まされたという方もいらっしゃいました。
神戸の皆さんと接していくうちに、震災のことに触れ、感じました。
学生時代という貴重な時間に僕自身、神戸を訪れて強くなった面や、人のつながりの大切さありがたさをたくさん知りました。それだけ神戸の街と人はあたたかく接してくださいました。神戸の復興に励む神戸の皆さんのパワーをいただいている気がします。
震災や復興に直面していない僕でも、神戸の皆さんに出会い、震災について触れることで人生観も変わったと思います。神戸の街にはほんとうに感謝しています。
なにか一つでもいいから神戸の活性化に役立ちたいという気持ちで、大好きなオリックスの試合を行うグリーンスタジアム神戸(現神戸球場)の内野デッキに5メートル四方のペンキ絵を描かせて頂いたこともありました。
まだまだ復興も完全ではないと聞きます。人々の心にはまだ癒えない1.17という現実が残っていると思います。
いまは社会人として、これからも野球やイラストを通じて、神戸の人たちの活性につながる活動ができればと思います。僕に元気を与えてくれる街神戸に、今度は僕が元気と感動を与えられればなと思っています。
すこしでも辛い過去である1.17より、未来につながる1.17となるように。
これからも頑張ってください。応援しています。

名前: 安藤隆晃(あんど う たかあき)

年齢: 26

住所: 名古屋市